



NPO法人 みどりのゆび

会報 2021年 秋号



コロナの克服へはまだまだ時間がかかりそうですね。
十分な感染防止対策をして、秋のフットパスをお楽しみください。

ご挨拶 事務局長・神谷由紀子

「20周年おめでとうございます」
というファックスが入りました！

みどりのゆびは2002年2月8日にNPO法人として認証されてから、あっという間に20年が経ちました。10周年の時に進士前理事長が「よくもったよね～」と冗談まがいにおっしゃいましたが、それからまた10年、今も元気に高見澤理事長の元で活動している町田でも最も老舗のNPOの一つとなりました。

20年のうちに、フットパスの原点、小野路で先頭に立って応援してくれた農家の小林文重さんは、病で歩くのすら大変になり、活動を支えてくれた事務局や会員さんも歳を重ねられて世代交代しています。時の流れを実感します。

しかし、この20年間、みどりのゆびがフットパスを通して社会に提言してきた、経済効果より地に足の着いた生き方—自分の地域を愛し、人生

の目的を成し遂げることを重要視する生き方—はコロナ禍の中でより大きな意義と賛同をもって世の中に、特に若い人々に受け入れられてきていると思います。今後もこの思いを、未来を担う人々に確実にバトンタッチする活動を続けていきたいものですね。

その一つにこの20年間ロングセラーのフットパスマップがあります。ありがたいことに今でも人気が続き、売れ行きは全く衰えていません。今年既刊4冊のうち2冊のマップを改訂しました。フットパスマップは普通の地図と違って、古くなくても昔の情報が読み取れるのでかえって貴重な資料となりますが、版を重ねるごとに最低限の改訂はしてまいります。

まだまだ魅力的なコースはあります。来年あたりからさらにコースを探索し。新たなマップを作りたいと考えています。皆様の周りで好きなみち、素敵なみち、愛する地域がありましたら是非教えてください。共に新しいフットパスマップを作って若い人たちに伝えていきましょう。



まちだフットパスを歩く
長津田からすずかけ台
〔講師：みどりのゆび〕

横浜市の里山と町田市の住宅街の
景観コントラストを楽しむ！

3月14日(日) 天気：晴 参加者：6名

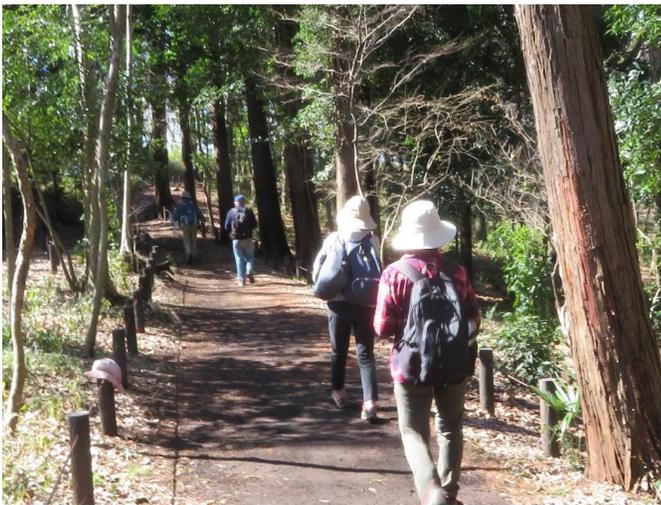
『まちだフットパス ガイドマップ』の改定に伴い、「6 長津田からすずかけ台」の内容をチェックしながらの楽しいフットパスでした。

東急こどもの国線長津田駅改札口よりスタート。「なすな原遺跡」の畑地を巡り、東急田園都市線と横浜線の線路下をくぐり、坂を上り八坂神社へ。ここは、大正10年の陸軍大演習で当時の皇太子殿下（昭和天皇）が演習をご覧になった場所で、記念塔やお手植えの松跡があります。眼下の成瀬方面から町田市街の素晴らしい眺望が見どころ。



八坂神社からの町田・成瀬方面の眺望

次に、長津田小学校の裏手の道に入り、新しい「長津田宿市民の森」の尾根道を進む。ここは鎌倉古道であり、当時の面影のある道です。



長津田宿市民の森の尾根道（鎌倉古道）を歩く

次に、森村学園の前の道を通り、旧大山街道の道の信号を渡り、住宅地の路地を進み、趣のある脇参道から王子神社の境内に入ります。

鳥居前のモミの木は横浜市の古木名木に指定されている御神木です。



王子神社鳥居前の御神木（横浜市古木名木）

さらに進んで、国道246号の歩道を渡り福泉寺に入ります。ぽっくり大師のお寺として親しまれています。ほけ封じ観音やぽっくり大師や握手薬師尊が建立され、境内で多くのご利益を頂けます。本堂脇の階段を下り、真暗闇を進む戒壇巡りをみなさまと体験しました。「目の見える有り難さ」を実感できました。ご接待どころでお茶と漬物等を頂きながら、お楽しみの昼食をとりました。



ぽっくり大師のお寺、福泉寺

裏の墓地に沿う道を上っていくと尾根に出ます。ここからの眺望も素晴らしく、長津田駅前や遠く東京スカイツリーまでも見られました。

しばらく尾根道を進み、雑木林を抜け出て資材置き場の先の左の小道に入ります。ちょっと見過ごしやすいので注意が必要です。雑木林を進むと天王社に出ます。



尾根道にある天王社

次に、天王社の参道の階段は下りずに、元の尾根道をしばらく進みます。三差路に出たら左折し下ると道の右に二十三夜塔があります。この下の道を右折し進むと林地蔵尊が右の角にあります。この辺りが伯楽谷戸です。



伯楽谷戸付近の二十三夜塔

この先がはっきりしないので、地元の人にお聞きしました。

地藏尊を右手に見て進み、フィールドアスレチックの臨時駐車場沿いを左の小道に入り、小川を渡ります。左の雑木林の小道を上っていくと伯楽谷戸の開けた畑地に出ました。



伯楽谷戸の畑地

畑地を過ぎ栗林を抜け、再び雑木林の尾根道を進み、右手の物流センターに沿った道を進むと国道246号に出ます。かつてはマクドナルドがあったが、今は、ガソリンスタンドに変わっています。

ここから国道246号の歩道橋を渡り、旧大山街道の馬の背の道へ入ります。坂を上り切ると町田市街の眺望が開け、遠く丹沢の山並も見えます。さらに進み、本日のゴール「すずかけ台駅」に着きました。



すずかけ台の馬の背から見る成瀬・町田市街地

(文と写真：田邊 博仁)



本日の歩いた経路

多摩丘陵フットパスを歩く
小山田スピノフ
[講師：みどりのゆび]

古い里山の生活の魅力とは？
今のうちに見ておこう

4月4日（日） 天気：晴 参加者：6名

「小山田緑地のコースよりこっちのほうが断然いい！」「小山田の本当のよさがわかる！」というのが参加後の皆さんの共通の感想でした。

昔ながらの広々とした里山、屋敷神の赤鳥居のある大きな農家、小山田のお大尽、森家の長屋門、それに普通見にはわからない里道から上がった尾根からの眺望、裏側の雑木林から入る鶴見川源流、風の丘公園から見渡せる小山田の里、新橋の長屋門、鶴見川の上流と下流の合わさる山の端橋周辺のニリンソウ群落。



ニリンソウ群落（横山）

今回のコースは、前回歩いた小山田緑地駐車場から始まる『多摩丘陵散策ガイドマップ1』の中の6「小山田」コースが結構長く、最後の部分が残ってしまいました。そこで、再度、唐木田駅からスタートしてその部分を歩き、さらに『まちだフットパスガイドマップ』の9「図師から小山田桜台」コースを、小山田バス停から山の端バス停まで歩き足したものです。

小田急線唐木田駅からスタートして10分、住宅地を超え尾根環を渡り、小山田緑地からの下り口を左に見ながら板金工場の向こう側、道路がちょうど左にカーブしたところを右に入ります。そこからは昔のままの小山田の里山が広がります。よく手入れされた農家、畑、屋敷神の組み合わせが多摩ならではの田園風景を感じさせます。

左手の暗い山の尾根道に入って、右に少し登っていくとお地藏さまがあります。昔はここを左手に入った畑の中に、雑木林に入るいい赤道がありました。20年くらい前に5~6人で草刈り機や鎌でこの道を再生して、道標まで雑木林の入口と出口に立てたのですが、赤道の下が掘られてこの道はなくなっていました。この道があれば面白くもない多摩市側の通りに出なくても山を越えられたし、快適さが全く違ったのに残念でした。出口の道標はまだ存在していました。



出口の道標

同じマップで⑪のクヌギの大木のある分岐点からの景観は、畑に下りる曲がった農道が美しく皆で写真を撮りました。



分岐点からの里山景観

正山寺の裏手を通り少し行くと、昔の落人部落のような集落があり、その中で森さんの長屋門がこの古くからの歴史を物語るようでした。20年前は灰汁で拭いた素朴な門でしたが、来る度に立派になっています。

鶴見川源流の泉に行くのに、小山田バス停からかなり往來の激しい舗装道路の脇に行くのですが、本当は雑木林の中に行くもっといい道があります。マップの⑮の里道の入口は一見農家に入っていくように見えるのでついつい迷ってしまいますが、これが公道で、どんどん登っていくと道の両側の畑傍に春には菜の花、秋には赤い曼珠沙華が咲いてかなりの登りの疲れを癒してくれます。



里山の畑の景観

畑の頂上から雑木林に入ります。今は町田市が整備しているらしく快適な山道になっていて、ここから源流の泉に下りる意味がよくわかります。



鶴見川の源流

今回はお昼も神明神社の下にある「そば処山桜」が開いていて、本格的な蕎麦と付近で採れるという山菜の天ぷらを堪能することができました。美味しいお店なので電話をして確かめてから行くといいと思います。

小山田一号遺跡も公園ですがいい道で、風の丘公園まで登ると小山田の里が一望できるビューポイントです。この辺からまた古い小山田の生活を偲ぶ景観を楽しむことができます。ひっそりとまた素晴らしい長屋門があり、新橋のあたりで鶴見川の上流と下流が合わさるといった感じがわかります。残念ながら昭和時代を彷彿とさせる大泉寺のバス停はもう取り壊されていました。

まだまだ里山の生活のよさが残る、一番いい部分の小山田、お勧めです。見られなくなる前に。



今日ご参加のみなさまと

(文：神谷 由起子 写真：田邊)



本日の歩いた経路



多摩丘陵フットパス
小野路の桜を見に行こう

〔講師：田邊 博仁〕

里山に溶け込む
桜の盛りを堪能

3月28日(日) 天気：曇(一時小雨) 参加者：4名

毎年恒例、今年の「小野路の春の里山巡り」は、桜開花が異常に早かったこともあり、予定より1週間早めて行われました。あいにくの天気予報で、参加者は少なめでしたが、昼前後に一時小雨に降られたものの、小野路の桜を楽しむには、そう差し支えなく、予想以上に充実した一日となりました。



花々に彩られた小野路「春の景観」

別所バス停に集合後、鎌倉街道東側の布田道を上ると、斜面の畑には薄ピンクのコヒガンザクラや黄色い菜の花が広がり、早くも春のワクワク感いっぱい。山道を進む足取りも軽やか、参加者の会話も弾みます。



斜面の畑に広がるコヒガンザクラ

小野路給水所を経て尾根道に出ると、小野路宿方面の穏やかな眺望が広がります。



東光寺へ向かう尾根道から

ご本尊様は源範頼の守り本尊という、名刹「東光寺」に着くと、墓苑全体がソメイヨシノで覆われ、思わず感嘆の声が漏れました。



東光寺の桜、今まさに満開

いったん別所バス停に戻り、昼食後、鎌倉街道西側の小野路宿方面へ。ムクロジの大木や恵泉女学園実習農場等を経て、「一本杉公園」方面へ向かいました。





しっとりした空気感、春の里山

その後、里山交流館付近を経て、小野路城趾方面へ向かいましたが、城趾に到着したところで、



小野路城趾



タチツボスミレ



道祖神



一本杉公園近く、「桜のトンネル」

急遽予定変更することに。この日の講師・田邊さんの発案で、五反田谷戸の樹齢200年のヤマザクラ、「哇桜」を見に行こう、ということになりました。

咲き具合はどうか、やや心配しながらの五反田谷戸までの道のりでしたが、山の斜面を下りて、目の前が開けた瞬間、ちょうど見頃の「哇桜」の勇壮な姿がありました。口々に「やったー」という声が上がりました。

東京都で唯一、「にほんの里100選」に選ばれている「小野路」。五反田谷戸の「哇桜」は、藤沢周平原作の映画「蝉しぐれ」に映し出されるシーンがあるそうです。



小野路のヤブザクラ

毎春、小野路のサクラ・ウォークをご案内していますが、今年は、桜の開花時期が早まり、お見せしたかったヤブザクラは、見ごろを過ぎ、散り始めていました。逆に、なかなか満開の時に出会えない五反田谷戸の老桜、ヤマザクラの「畦桜」は、満開で、健在ぶりが確認できました。

ヤブザクラは桜の仲間で最も花が小さいマメザクラとエドヒガンの推定自然雑種です。多摩丘陵地域に限られ、小野路では、別所と小野路城址でも、見ることができます。低木で下向きに咲く可愛らしい桜の花です。



五反田谷戸の「畦桜」



映画「蝉しぐれ」ロケ地にもなった景観



ヤブザクラは子房の部分がぶっくりとふくらんでいる



太い幹は樹齢200年の重み

斜面を登ったり、下りたり、畦道を行ったり来たり、各自が写真撮影に夢中になっていました。五反田谷戸の美しい景観と「畦桜」の勇壮な姿、1日の終わりにあまりの充実感、心が満たされていくのが実感できました。全行程を終えて、鶴川駅行バス停まで最後の車道歩きも苦にならず、満足いっぱいの日を終えることができました。

(文と写真：宇佐美 均)



五反田の丘陵地のヤブザクラ



小野路城址のヤブザクラ

(文と写真：田邊 博仁)

フットパス専門家講座

スマレ博士による新百合ヶ丘の春

[講師：植物研究家 山田 隆彦]

開発前も今も楽しませてくれる 新百合ヶ丘周辺の植物

4月11日（日）天気：晴 参加者：12名

平成元年7月にこの地に越してきて、もう33年にもなる。1ヵ所にこんなに長く住んだのは初めてで、最短は南浦和の7カ月、最長記録は行徳の13年間であった。その前は阪神間、下関、小倉、奈良、京都、甲子園と西日本が中心で、新百合ヶ丘に住むことになるなど夢にも思っていなかった。世の中がバブル景気の頃、広い間取りのマンションを探していたのだが、今と違いすんなり買えるところは、びっくりするような高額。なんとか手が届くところは抽選があり、総て落選。困っていたところ、たまたま勤務先の同僚から教えてもらい一緒に申し込んだのが今のマンションである。抽選倍率99倍に当選しこの地に住むことになった。そのころ、尻手黒川線はマンションの前から世田谷通りまでは開通しておらず、駅からのメイン道路も車はほとんど走っていなかった。駅の周りにはスーパーもなく、買い物は周辺の町田や稲城に行かなければならなかった。

駅からわが家まではほとんど空き地で、そこは長く種々の草花が生い茂るお花畑となり、植物愛好家が遠くから訪ねてきていた。私にとって、はじめて見るヨーロッパ原産のセイヨウヒキヨモギが群生していた。この植物には腺毛が全体に生え、触るとベトつくのを確認して喜んだり、マンションの周りの草地には日本ではじめて見つかった帰化植物（外国から入って定着した植物）があった



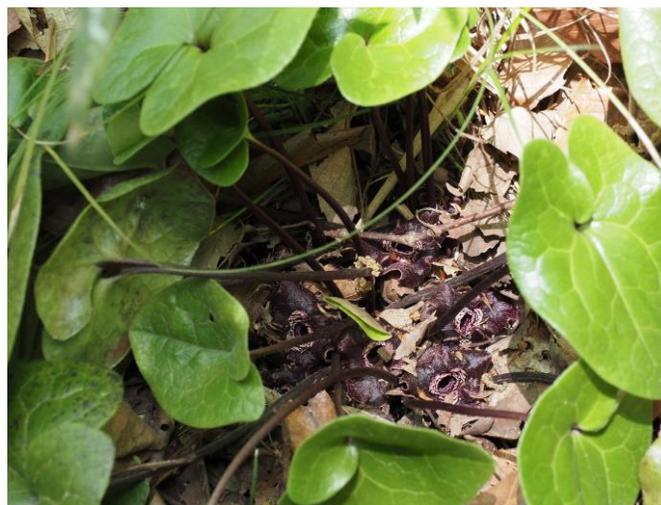
セイヨウヒキヨモギ

り、話題にはことかかなかった。その植物の名はコメツブヤエムグラといい、アカネ科で1992年に日本新産の帰化植物として新百合ヶ丘の標本をもとに発表されている。先日、残っていないか探してみたら、道路の割れ目などにはなく、主がいなくなり、放置されたフラワーボックスに群がって小さな花をつけていた。この先、消えてしまうのも時間の問題だ。



コメツブヤエムグラ

新百合ヶ丘周辺で、私の好きな観察地は、麻生スポーツセンター横にある山口白山公園で、多摩丘陵を中心に分布するタマノカンアオイが群生している。4月中旬に花が盛りとなり、葉の下で隠れて咲いている。タマノカンアオイの花粉媒介はキノコバエやダンゴムシなどによるが、それを確かめたく長く座って観察するのだが、なかなか出合わない。夕方に集まってくるのだと聞いた。確かに、高尾山ではキノコバエの媒介するコチャルメルソウにキノコバエが寄ってきていたのは、午後4時ごろであった。ただ、この時間は蚊の襲来があり、まだ観察する勇気が起きない。



タマノカンアオイ

ここには、ムラサキシキブほかヤブムラサキが多く生えている。このヤブムラサキは金鉱脈探索植物として利用されている。植物による鉱脈探しは、今から百年ほど前にイギリスの植物学者のラングイイツが、植物中の金の含有量を測ることで金鉱脈を探せると指摘したことが始まりである。金の鉱床が確認されている青森県の恐山ではナナカマド、チシマザサが、鹿児島県菱刈鉱山ではヤブムラサキ、イヌビワ、ウラジロにおいて金の含有量が高いことがわかった。鹿児島県、島根県では、特にヤブムラサキが金を多量に含み、金鉱脈に対する有望な探索植物であることがわかっているようだ。土壌を分析するより、植物を分析したほうがより広い範囲の地下の様子がわかるようだ。ヤブムラサキに蓄積された金の含有量は、金鉱脈から500m～1km以上離れたところでも比較的高い数値を示すという。ヤブムラサキのような金を集積する植物には、5/100000000(一億分の五)ほどの金が含まれているようだ。



ヤブムラサキ

わがマンションの南側に、小高い茶臼山がある。先日の散策時に、ご案内した所だが、ヤマテリハノイバラの白い花、シラカシ、アラカシ、ウラジロガシ、アワブキ、タブノキなど、種々の樹木が生えている。居間から、四季折々の樹々のいろどりを楽しめる。春の新緑、ヤマザクラの花、秋の紅葉、冬の雪景色、緑いっぱいの眺めに満足している。新百合ヶ丘はなかなかよいところである。

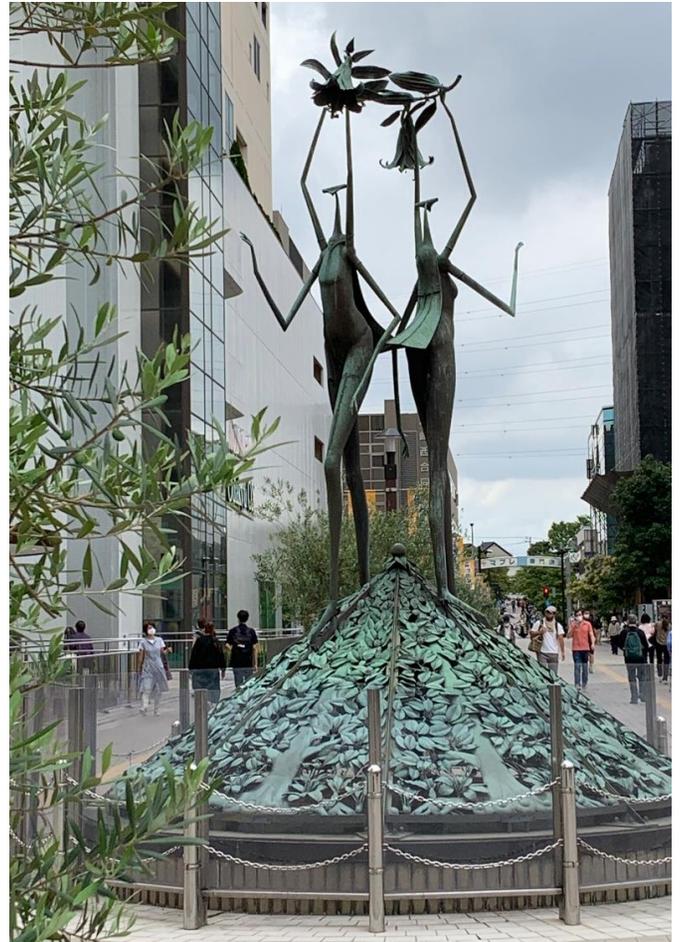


ベランダから茶臼山の眺め

(文と写真：山田 隆彦)

都会的立体空間と里山をつなぐ みどりの魅力

小田急線「新百合ヶ丘」駅南口。眼前には広い遊歩道が緑を従えて、近代的なビルの群を貫いています。中央に佇むのはこの地域のシンボル、ユリの花を掲げるブロンズの彫刻です。



駅南口のシンボルの彫刻

この日はエリア内にお住まいの“スマイル博士”こと山田隆彦先生に、緑豊かな地元をご案内いただくフットパスです。さっそく中央のペデストリアンデッキを右にとると、遊歩道には大小の灌木が植え込まれた水路状の緑地が。行き交う人たちと腰を下ろして寛ぐ人たち、それぞれが濃くなり始めた緑に溶け込んでいます。

山田先生、立ち止まってさっそく樹木の解説です。密になるのを避けながら、取り囲む一行。まだスタートしたばかりなのに、この調子では長い遊歩道を渡り切るまでにどれくらいの時間がかかるやら。両脇には商業ビルやホテル、大学などが建ち並び、見下ろせば尻手黒川線が街路樹の葉陰の下を通ります。



駅前遊歩道の緑スペース（田邊）



遊歩道の樹木も可愛い花を付けて

このエリアは山林の割合が60%超という起伏のある椀状の丘陵地で、新百合ヶ丘駅が開業したのは1974年。地域住民と行政一体の駅周辺開発計画や小田急電鉄のまちづくり構想も功を奏し、1998年には都市景観大賞を受賞。今では映画や音楽大学、川崎市アートセンターなど、駅周辺に芸術文化関係の施設が集まる「緑あふれる芸術の街」となっています。

駅南口周辺の都会的な緑の展開を観察した後、深い木立に囲まれたグラウンドへの斜面を下り、雑木林のある山口白山公園へ。途中、「新百合ヶ丘駅周辺景観計画特定地区・都市景観形成地区」のプレートが。公園の階段を住宅街に向かってさらに下ると、そこはなんと鎌倉街道。「山口谷戸の石塔群」も刈り込まれたサツキに囲まれて、道行く人を見守っているようです。

新百合ヶ丘といえば、アメニティ・タウンとして緑の生垣や街路樹が美しい山口台の街並みが知られています。環境保全委員会が組織され、積極的にまちづくりに取り組んでいる結果なのです。



山口白山公園の雑木林

住宅街を抜けて、市民農園ののどかな光景を眺めながら歩く麻生川も魅力です。有名な桜並木も今年は開花が早く、川面には花筏の名残が少々。それでも、擁壁に群れ咲くヒメツルソバやペラペラヨメナの愛らしい小花が印象的でした。



ヒメツルソバ



ペラペラヨメナ



アメリカスミレサイシン

橋を渡って、川に添って走る世田谷街道へ。ここから柿生方向に歩き、修廣寺へ。15世紀初めに開創された禅寺で、石段を登った境内の奥の尾根道に雑木林が広がります。木漏れ日を受けた小径の両側には、可憐なチゴユリ、キンランも！ 多摩地域特有のタマノカンアオイの群生には、一同歓喜の声。葉っぱをそっとめくると、根元の土の中から覗くように海老茶色の花を付けています。ここは地元の有志たちによって保護管理されているようで、地域の原風景を残す気概を感じたことでした。



修廣寺裏の雑木林



キンラン



チゴユリ



修廣寺からの尾根道 (田邊)

さて、新百合ヶ丘駅周辺でお昼をとということになり、駅北口近くの「リリースバイプロメティ-」へ。農家のシェフがつくる野菜中心の農家レストランです。昨年フットパスで訪れた、岡上で自家栽培するブドウのワインも少々いただきながらのランチは、午後の英気も養ってくれました。



食後、レストラン前 (田邊)

まちづくりが取り組む里山・里地の残す緑と新しく配置する緑、進化するみどり環境を体感できたフットパスでした。

(文と写真：横山 禎子)



樹木調べなら
この1冊が便利！

本日の講師、山田隆彦先生監修の図鑑。街中や公園、野山などで出会う樹木をもっと知りたい！という方のために、葉っぱや花、樹皮などで見分けられる樹木が294種紹介。自然散策が楽しくなります。『樹木図鑑』定価(本体1500円+税) 池田書店



フットパス専門家講座

相原七国峠古道の中世・粟飯原氏のムラ跡を探る

【講師：古街道研究家 宮田太郎】

関東山の辺の古街道をたどりつつ、 貴重な歴史環境に夢をはせよう

4月18日（日）天気：晴 参加者：16名

かつて古代から中世、さらに江戸時代を経て明治時代まで様々に活用され、深い歴史を刻んできた古街道の一つが、町田市の相原に約1.2キロメートルに渡って残されています。「相原七国峠古道」の名称はいつから使われだしたか不明ですが、講師ガイドを担当した小生（宮田）の活動記録集では、平成5年（1993年）4月18日に「多摩丘陵古街道探索会・第19回（たま古街道紳人会）」という探索ウォークでこの名称を初めて挙げています。

今回のNPOみどりのゆびのイベントウォークでは、発足以来何度かこのコースも実施したかとは思いますが、近年SNSでも取り上げられ、また地元の有志の会の皆さんがよく手入れをしてくださっていることもあり、神谷代表から「再度みなで歩きたいですね」とのお話を頂き、今回の実施となりました。当日は初めて訪ねた参加者や、若手で中世の城が好きなメンバーなども加わり賑わいのある探索となりました。

特に相原地名の元になったとも考えられる鎌倉時代武士団「粟飯原氏（あいはらし）」の推定居住区域にも入り、津久井街道の二本松へ（さらに鎌倉へ）と続くこの古街道のルートについても、地域のお寺の壁治いや住宅地の路地や区割りを参考に、楽しく推理しながら探索できたのは有意義なことでした。

【コースと見どころ】

①JR相原駅に集合してから、見晴らしの良い丘の中腹を西へと歩きました。鎌倉時代創建の「丸山諏訪神社」までのコースから見る展望は素晴らしいもので、相模原台地（相模野）が盛り上がった丘として眼前に広がり、大山や丹沢の山々、また富士山も上半分の雄姿を現す（当日は雲があったちょっと残念）など最高のロケーションです。

②カイト＝「開都」という良い字をあてた古地名が明治時代の地図に見られる丘の「長福寺」にて、文殊堂、大奥から城下がりになった女性と侍女を供養した地蔵尊像などを見学し、「朱雀路」とかつて命名された（境川上流域研究会）遊歩道コースから横穴古墳の位置も眺めました。

③相原起番地の標柱がある粟飯原氏居住区（境川を神奈川県側に渡った相模原市相原地区内）につながる、この古街道推定ラインをたどりました。さらに今から20年ほど前に畑の中に開いていた大きな穴に入って、地下の壁面で確認していた「中世の道路遺構（推定）」の位置を思い出しつつ、当時の踏査資料（宮田）を参考に皆さんと探索しました。

④相原七国峠古道の峠付近では希少な「荷車の轍（ワダチ）跡」や関所跡？も観察。また、頂上の「大日堂」から下る道筋の土壁に無数に見られた小穴が、絶滅危惧種で世界最小サイズの「トウキョウトガリネズミ」の巣（複数なのでアパート？）の出入り口ではないか？ーと、皆でワイワイ・興味津々で観察しました。

【総合的感想】関東山の辺の道でもあるこの道は古代の窯跡群も眠っていたり、戦国時代には小田原へ向かう北条氏照の軍勢が通過したという言い伝えや、山形の月山・羽黒山・湯殿山まで通っていた翁たちのことを刻んだ三山供養塔もあり、まだまだ謎が多い古街道。ぜひこの全体の歴史環境を町田の宝として、後世に遺したいと一同確認し合いました。
（文：宮田太郎）



本日の参加のみなさまと



今日も見つけました縄文土器



配布資料の明治時代の地図で現在位置の確認



相原七国峠古道の峠付近の希少な「荷車の轍（ワダチ）跡」

（写真：田邊）



長福寺にて文殊堂、地藏尊像を見学

宮田先生が語る 歴史ロマンに導かれて

JR横浜線相原駅西口広場 午前10時集合。
駅前北側の階段を上ると、そこには旧家と古道。
早くも歴史ロマンの世界となる。



相原中央公園から七国峠へ向かう



旧家と古道

坂道の途中の畑には井戸がある。さらに上ると
眺めが素晴らしい「丸山諏訪神社」裏へ。まさに
相原・奥相模の眺望、確かに古代ロマンを感じる。





諏訪神社社裏からの奥相模の眺望

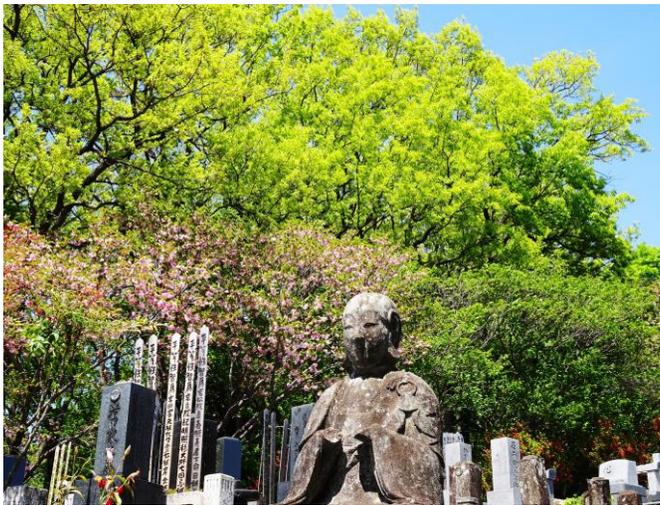
丸山諏訪神社から西へ。集落内の道を進み、急な階段を上ると相原の名刹長福寺。文珠堂の龍の彫刻、大奥に仕えた中臈の像など見どころも多い。高台にある長福寺からも、長者窪の横穴古墳その先の大山など、奥相模の眺望を楽しむことができる。長福寺のある山を下り相模中央公園で昼食。

午後はいよいよ相原七国峠古道へ。戦争末期、戦車が隠されていたとされる谷戸を抜け、古道沿いにある羽黒三山供養塔の由来や古道に残された轍の跡など、生の歴史的遺物を前にした宮田先生の古代ロマン溢れる解説を堪能させていただきました。



相原七国峠古道

大日堂から南へ下り、町田街道で解散。



中臈の像



素晴らしい生け垣のある旧家

「境川と相模川の間が高座という。高座郡の奥に相原がある。」この出だしの宮田先生の語りで一気に古代ロマンの世界に引き込まれていく。平塚・大磯の高麗山とのつながり、府中の国衙と相模国府の海老名との線上にある座間市の星谷寺、古代の駅家（うまや）夷参（いさま→座間）との繋がりなど、次回のフットパスコースに繋がる話も聞け、古代歴史ロマンの面白さの一端を味わうことができました。

（文と写真：浅黄 美彦）



長福寺からの眺望



フットパス専門家講座
座間の旧集落から谷戸山公園へ
[講師：浅黄 美彦]

地形の変化をたのしみ
まちづくりの魅力を探る

5月16日（日）天気：曇り時々雨 参加者：9名

前回のフットパス専門家講座では、古街道研究家の宮田先生のガイドにより、相原七国峠、高座郡を見渡す相模野台地の奥の古道を歩きました。今回も「高座郡」の真ん中あたり、相模川の中流域にある神奈川県座間市の台地、丘陵、崖線を横切るように地形を楽しみながら歩きました。

朝10時、小田急線相武台前駅改札に集合。まずは相武台前駅にある操車場と変電所を見て“昭和”を感じました。



操車場：相模川から砂利をトロッコ鉄道で相武台前駅に運び、積み替えた集積所の跡地利用



小田急変電所：大正末期に建設された市内最古のRC建造物

相武台前駅から南へ少し歩くと、相模野台地を削る谷戸にある「かのが沢公園」に着く。駅の直近に谷の始まり「谷頭」が確認でき、スリパチビューを眺めることができます。



かのが沢公園からのスリパチビュー

細長い公園の斜面を下りながらさらに南へ。谷底にある住宅地を抜けると、栗原遊水地に出ます。相模野台地西端の崖下を源流とする目久尻川の遊水池です。



目久尻川遊水地：2つの崖線に挟まれた3級スリパチ

遊水地西側の崖の階段を上った高台に、昭和40年代初めに200戸ほど計画開発された第一住宅分譲地があります。この住宅地は、地区計画制度が指定された良好な戸建て住宅の環境が保たれています。

市役所庁舎脇を通過して「県立谷戸山公園」へ。昭和59年にアーバンエコロジーパーク（都市の中の自然生態観察公園）として都市計画決定され、原地形を生かした公園として平成5年に開園しました。



公園内の古道から見た大山



集合写真（田邊）

谷戸山のある座間丘陵は、戦前に陸軍士官学校（昭和12年開校 戦後にキャンプ座間）、小田急の座間遊園地計画（林間都市計画の一環として用地取得するも戦争で中止となった。別荘地分譲を経て、戦後計画住宅地となった谷戸山公園の南側エリア）などにより大きく変貌しました。そうした中で座間丘陵の真ん中にある谷戸山は、里山の風景を残す貴重な場所であることがわかります。



座間の航空写真：キャンプ座間、谷戸山、計画住宅地

谷戸山公園の西門を出て小田急線の小さな踏切を渡ると星谷寺。坂東33番札所のひとつです。昼間でも星が映るといわれている井戸をちらりと見ながら、すでに午後1時を過ぎているので、急ぎ鈴鹿明神社近くの蕎麦屋へ向かいました。

午後は相模川河岸段丘の崖下の自然堤防上にある旧集落「鈴鹿・長宿地区」へ。かつて近郊のどこにでもあった旧集落の佇まいを今も残すまちを歩きました。

1990年頃から少しずつ丹念に地域とともにまちづくりを進めてきたエリアです。地区の骨格となる崖線の緑（ハケ）は、特別緑地保全地区として保全し、用途地域は第1種低層住居専用地域にダウンゾーニング。建物の意匠、形態などよりきめ細かなルールは、街づくり協定と景観条例。道路、水路、広場の整備は街並み環境整備事業など、目標に沿っていくつかの手法を重ねて、何気なくほっとする街なみづくりを進めてきた地区です。



鈴鹿の街なみ

鈴鹿長宿から座間駅への帰り道は、心岩寺横の崖線の急な階段を上り、最後の力を絞ってもらい坂のまち座間を体感してもらいました。最後に座間駅前にある小田急電鉄の社宅をリノベーションしたホシノタニ団地にあるランドリーカフェで歓談して解散。ここも戦前は砂利置き場であった場所でした。

いつもの多摩丘陵とは違う相模野台地西端の丘陵の公園と、崖沿いの旧集落を案内させていただきました。

（文と写真：浅黄 美彦）

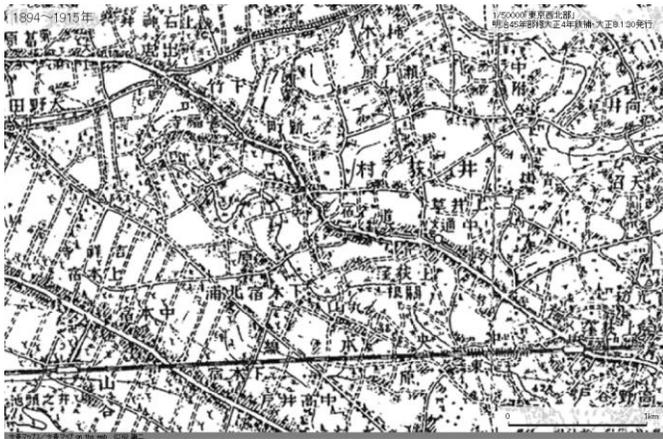


他のまちのフットパスを見てみよう！
西荻～旧井萩町（村）を巡る
 [講師：岩崎 英邦]

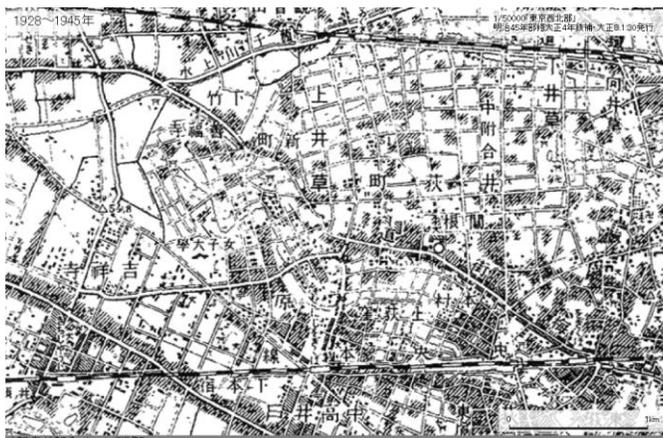
土地区画整理による 文化的郊外住宅地への進化を訪ねる

5月23日（日） 天気：晴 参加者：6名

旧井萩村（町）の地図です。上側は明治27年（1894）～大正4年（1915）の、下側は昭和3年（1929）～20年（1945）の地形図です。下側は既に土地区画整理が終わっています。同じような時期、田園調布や成城学園前では民間のデベロッパーによって拓かれ分譲されましたが、ここでは、大正14年（1925）から10年をかけ旧井萩村（町）という行政機関によって、全村（町）に渡って土地区画整理が行われました。総面積888町歩（約879ha）、単一の町村独自で行った事業としては全国屈指の大規模なものでした。優れた町づくりであったと同時に、近郊農村であった村（町）が郊外住宅地へと生まれ変わる基盤となったのです。



明治27年(1894)～大正4年(1915)の旧井萩村



昭和3年（1929）～20年(1945)の旧井萩村

旧井萩村（町）を今日は、①観音寺→②桃井原っぱ公園→井萩町役場跡（今日は寄りません）→③荻窪八幡神社→④井萩町土地区画整理碑→⑤井草八幡宮→⑥都立善福寺池公園→善福寺川沿い→西荻窪駅と歩きます。道すがら、真っ直ぐなこと直角に交差していることなど道路を観察してください。土地区画整理を実感していただくことが旧井萩村（町）巡りの目的です。

① 宝珠山観音寺（杉並区今川2-16-1）

曹洞宗本尊は釈迦如来

戦国時代の名門今川氏ゆかりの寺として知られています。今川13代直房は、将軍家光の命を受け東照大権現の宮号宣下の使者を勤めました。その功により井草村など三ヶ村の加増を受けましたので当寺を菩提寺と定め、祖父氏真を開基とし、万昌院（現中野区）から祖父氏真の墓所を当寺に改葬しました。

氏真は「桶狭間の戦」で織田信長によって父義元を失い、その後出家しましたが歌人としても多くの歌を残しています。当寺には上下井草村の古文書、板碑などが数多く保存されています。墓地には都指定旧跡の今川氏累代の墓があります。



今川家累代の墓（観音寺）

旧井萩村四村は、江戸時代には上・下井草村は今川氏領、上荻窪村は幕府直轄地、そして下荻窪村は山王日枝神社領でした。当然年貢の率も違い、村々に課せられている賦役も異なっていました。成り立ちの違う四村が、明治22年（1889）町村制施行に伴い合併したのです。観音寺の住所の今川は、今川氏に由来しています。観音寺は今川氏の領地支配の中心であり、ほかにも御菜園跡、行刑屋敷跡、御茶園などが伝えられています。



②桃井原っぱ公園（杉並区桃井3-8-1）

中島飛行機発動機（株）東京工場跡地です。当社は「零式艦上戦闘機（零戦）」の「栄」や「寿」「誉」といった航空機のエンジンを設計・製造していました。戦後は富士産業（株）、富士精密工業（株）、プリンス自動車工業（株）と社名を変え、その後日産自動車（株）に合併されました。昭和28年（1953）、富士精密工業（株）は東京大学生産技術研究所（現文部科学省宇宙科学研究所）の指導を受けロケットの開発に着手。昭和30年（1955）にペンシルロケットの初フライトに成功し、これが日本のロケットの第1号となりました。



桃井原っぱ公園（中島飛行機・工場跡地）

大正14年（1925）中島飛行機発動機（株）東京工場の誘致によって、井荻村は土地の有効活用、税金の増大が見込まれたほか、周辺農家の次男坊・三男坊をはじめ子女への雇用創出、商店街の発展や農家の現金収入をもたらした貸家の増加（農家の地主化）など経済的・社会的な影響は計り知れないものがありました。

青梅街道際には、旧中島飛行機発動機発祥之地の碑と並んでロケット発祥之地の碑もあり、ペンシルロケットが埋め込まれています。



ロケット発祥と旧中島飛行機発動機発祥之地の碑

「荻窪八幡神社」へは青梅街道を渡りますが、荻窪駅方面左へ150mほど行くと、荻窪郵便局手前に井荻村（町）役場跡の案内があります。逆に右側へ行くと荻窪警察署、荻窪消防署があります。この辺りが井荻村（町）の中心地だったのです。

③荻窪八幡神社（杉並区上荻4-19-2）

御祭神：応神天皇 社各等：村社 例大祭：9月15日に近い日曜日

この神社は旧上荻窪村の鎮守で、今から約1080年前の寛平年間に建立されたと伝えられています。

永承6年(1051)、源頼義が奥州の安倍貞任征伐の途中、ここに宿陣して戦勝を祈願。神恩に感謝して当社を厚く祭ったと言われています。

文明9年(1477)4月、江戸城主太田道灌は上杉定正の命を受け石神井城主豊島泰経を攻めるにあたり、この神社に武運を祈願しました。

この時植えたマキの樹1株が、500年の歳月が経過した今も「道灌榎」と呼ばれ、御神木として大切に保護されています。



荻窪八幡神社

④井荻町土地区画整理碑（杉並区善福寺1-33-1）

井草八幡宮東参道の北側、青梅街道沿いにあります。農家が主体となった土地区画整理によって農家自身が多大な収入・利益を得ることができました。井荻村（町）は土地区画整理に併せて大正10年（1921）に電灯を敷設し、井荻町水道を昭和5年（1930）に着工同7年（1932）3月に完成・給水を開始しています。同年10月杉並区が誕生し編入され、井荻町は消滅しました。



井荻町土地区画整理碑



⑤井草八幡宮（杉並区善福寺1-33-1）
御祭神：八幡大神・応神天皇 社各等：郷社・別表
神社例大祭：9月30日～10月2日（3年に一度神
幸祭 5年に一度流鏝馬）

この神社は旧上、下井草村の鎮守です。明治時代までこの付近の古い地名から、「遅野井八幡宮」とも呼ばれていました。境内からは縄文時代中期（約4000年前）の住居址が発見され、多くの土器が発見されています。

当社は900余年の歴史をもつと伝えられ、社前には源頼朝が文治2年（1186）奥州藤原泰衡征伐の際、戦勝を祈願して手植えを寄進したという天然記念物の大きなマツがありましたが、残念ながら昭和48年（1973）枯れてしまいました。また、江戸時代の慶安2年（1649年）徳川家光は、社殿を造営させ朱印領六石を寄進しております。

都内の神社で一番広いのは明治神宮、二番は靖国神社、三番は大宮八幡宮（杉並区）、四番目が境内約一万坪の当社です。



都立善福寺池公園



井草八幡宮の大鳥居



本日、ご参加のみなさまと

善福寺川に沿って下り、西荻の町おこしの一環として藪内佐斗司氏の「六童子」が設置してある小さな街中の公園を訪ね歩いて、西荻窪駅にしました。

⑥都立善福寺池公園（杉並区善福寺2・3丁目）

善福寺池は井の頭池（都立井の頭恩賜公園）と三宝寺池（都立石神井公園）に並んで武蔵野三大湧水池として知られています。日本野鳥の会を設立した中西悟堂氏が善福寺池の近くに住み、知人等と野鳥の観察を行っていたことから「野鳥の聖地」とも呼ばれているようです。

また善福寺川の水源となっているほか、東京都水道局の杉並浄水所の水源にもなっています。23区内の東京都水道局管轄の水道で、井戸を水源としているのはここだけです。地下水の水質が良好なため濾過は行わず今も消毒処理のみです。井荻町水道はいまだに現役なのです。



六童子めぐり

（文：岩崎 英邦 写真：田邊）

多摩丘陵フットパス専門家講座
岡上のバラガーデンから玉川学園、
町田へ

[講師：高見澤 邦郎]

急階段や尾根道がつなぐ豊かな日常

5月30日（日） 天気：晴（一時雨） 参加者：11名

フットパスガイドマップの3と4をつなげて、尾根と谷戸を、緑と住宅をという企画です（電車なら10分ちょっとですが）。朝10時、小田急線鶴川駅北口改札に集合し、町田寄りの踏切を渡って直進、鶴見川を渡って最初に立ち寄ったのが「さんかくガーデン」。道路と水路に挟まれた小さな土地を四季折々の草花でよみがえらせた住民管理の広場です。



「さんかくガーデン」は花一杯

先を急ぐので尾根に上がらずそのまま和光大学方向へ。左に岡上の急坂の住宅地、右にわずかに残った田んぼが見える道を10分ほど歩くと、建築工房があって「季の庭」の表示が。この庭は上の斜面にあった2軒の住宅が取り壊された跡地を工房の夫妻が購入して開園したとのこと。この季節はバラが美しいガーデンですが、残念ながらコロナ禍で閉鎖中。手前の急坂を登って上から眺めてみました。庭の向こうに大学が見えます。



手前が「季の庭」

さらに急な階段を上がって尾根道に到達。左側の谷戸は川崎市の緑地保全地区に指定された樹林帯で、右側には結構昔に建ったとおぼしい住宅が続きます。やがて道は細くなり、都県境の標識が地表に打たれているあたりからは左右とも玉川大学の構内で、農学部の牛舎もありました。



牛舎が残っていました（浅黄）

さて道はそのまま玉川大学の構内に入ります。手入れのいいキャンパスに並ぶ校舎を見ながら進むと、再び左側に住宅が並ぶように。このあたり、鎌倉古道沿いで住所は横浜市奈良町ながら、もう玉川学園前駅にほど近い住宅地。左に奈良北団地に下りる信号を越えたあたりから丘と谷戸の風景が広がり、道沿いにニラハウス（作家・赤瀬川源平さんが住んだ家）も。そのまま下って小田急線踏切、そして駅。12時前に到着し、南口の和食屋さんとイタリアンの店に分かれて昼食をとりました。



以前は屋根にニラが植えてありました



かしの木山公園入口

午後の部は、まず1週間前に建替えオープン of 学園駅前コミュニティセンターを見学。

右に下って恩田川を渡ります。長い道のりで皆さんお疲れ、「こがさかベイク」のカフェでお茶タイムを取ることに。



新装なった「玉川学園コミュニティセンター」(浅黄)



「こがさかベイク」で一休み(浅黄)

東側に道をとって急坂を登り、再び鎌倉古道を進みます。住宅地を抜けると右側に三井住友海上のグラウンド(手前に町田市街地、遠くに丹沢・大山が望める)、左側は深い緑の昭和薬科大学。さらに進んで元からの樹林を保全している「かしの木山自然公園(通称どんぐり山公園)」を歩き、南の出入口から住宅地の中を行くと「鞍掛の松」の碑(鎌倉攻めのとき新田義貞がここで休んだ)のある小さな公園に出ました。

休憩後、高ヶ坂遺跡(縄文中期の敷石住居跡)、熊野神社を経て最終目的地の「芹が谷公園」に到着。国内では唯一とされる版画専門の「国際版画美術館」があります。公園は水と緑に恵まれた一帯で、小さな子ども連れの家族がたくさん訪れていました。



点と線

今回のルートはいずれもよく見聞きしている場所でしたが「点」を知っていただけで、フットパスでそれらを結ぶ「線」を歩くことができ、面白い経験でした。以前、和光大学から玉川学園に抜けるルートを適当に歩きはじめ、山越え谷越えでエライ目にあつたことがあります。今回、尾根沿いルートを知り、目からウロコ。また、学園南側尾根の、今回一緒に歩いたTさん宅の前の道は、なんと鎌倉古道だという。「鎌倉古道沿いにお住まい?」。歴史に隣接している暮らしのようでちょっと羨ましい。これをきっかけに鎌倉古道そのものにも俄然興味が湧きました。

途中で立ち寄った玉川学園駅前の新装コミュニティセンター入口にはユニークなベンチが置かれています。駅前の樹齢92年の大ケヤキ——夏は大空に緑の葉がそよぎ、冬は天に大枝を差し上げる姿が「いってらっしゃい」「おかえり」と言っているようでした。それが枯死し2017年に切り倒されたのを、町の人たちが希望して蘇らせたのです。それが町内在住の木彫家・前田忠一(ただかず)さんにより姿を変えてお目見えしています。背板の両面には町田市の鳥・カワセミ、ウサギ、イヌ、バク、ミミズクたちが浅彫りされ「ようこそ」「またね」と。



芹が谷公園の入口に国際版画美術館が建つ

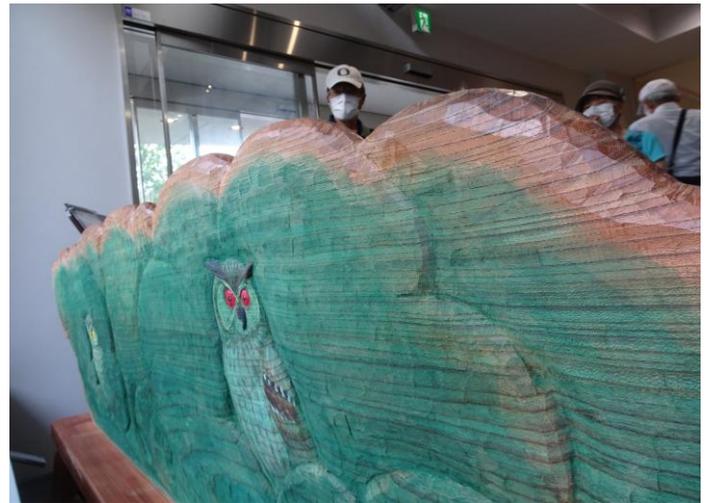


動く彫刻、水がザーッと落ちてくる

雲行きが怪しいなと思ったら夕立がきて、公園の東屋でしばし雨宿り。小やみになったところで町田駅へ向かい、4時過ぎに解散しました。

川崎市から出発し横浜市をかすめ町田市へと結構歩いたわけですが、谷戸の風景、丘陵の住宅地、緑につつまれた学園や公園などを楽しむことができました。なおこのコース、トイレが駅前と公園にしかないことにご注意ください。

(文と写真：高見澤 邦郎)



大ケヤキがベンチになった(浅黄)

(文：塩澤 珠江)



緑地管理

コロナ禍もどこ吹く風、 元気な雑草と格闘、花を楽しむ

2月21日(日) 天気：晴 参加者：5名

作業当日前半は緑地の、後半は竹林の整備をした。

緑地では合田さんが草刈りを進め、私たちはまだしぶとく残っているブタ草を抜いたり、石垣さんの号令のもと、すでに刈ってあちこちに山になっている草を1カ所に集めて焼く作業をした。

メイさんがフォークで次から次へと一輪車に草を積み上げながら、「まるで農場で働いてみたい」と、ウフフと笑っている（この2日後、かなりの筋肉痛に見舞われることになる）。火のところでまで草を運ぶのに忙しく、結構きつい作業だった。

緑地があらかた整った後、石垣さんが火の始末に残り、4人はそれぞれノコギリを手に竹林に向かった。台風のせいか、入り口側の木の枝が幹から引き剥がされるように折れていて、根元には太い枝が何本も散らばっている。この枝をタケノコ掘りの時に使う薪にするため、合田さんたちが60センチほどに切り揃えたが、細いノコギリでの作業は根気のいる仕事だった。

竹林の端に粗大ゴミが放置されているのを発見。なぜここに捨てるのか。そういえば、来る途中の道端にこのゴミの外箱が無造作に捨ててあった。町田市にゴミの処理を依頼するため、神谷さんが現場の写真を撮った。

斜面に生えていた細い竹も何本か切って1カ所に集め、再び緑地に戻った時には火の始末がすっかり終わっていた。

緑地の真ん中辺りにあるコブシの大きな木に蕾がたくさん付いていた。もう10日もしたら見事な眺めだろう。ロウバイの若い3本の木には薄黄色の花がいっぱい咲いている。もう1週間早ければ香りも見栄えももっとよかったに違いない。



ロウバイ(横山)



タツナミソウ(横山)

この日は暖かくて、小野路を歩いている人が多かった。
(鈴木 由美子)



枯草を集めて(神谷)



整備された緑地(神谷)

竹林の整備あってこそその タケノコ掘り、今年は？

4月10日(土) 天気：曇 参加者：?名

コロナ禍とこの時期の天候不順、結果としての竹の生育不調は、毎年のご褒美、タケノコ掘りの楽しみも削いでしまいました。

冬から月に1日続けて来た竹林の整備は、タケノコ掘り本番の4月に備えて拍車がかかります。3月21日(日)の直前整備は雨のため中止。それでも熱心な合田さんから、「近いんだからどうですか?」と声がかかり、26日(木)には二人で竹林の整備をすることに。竹林では雑木を含めて倒木が数本あり、足場も悪い状況。これをノコギリで裁断して広場に集め、4月10日(土)に予定されているタケノコ掘りに備えました。

さて気になるタケノコの出具合は？ 今年はどこも不作という評判も気になり、本番の10日を前に、続いて4月7日（水）には下見を敢行。広場を挟んで上段の竹林では、それでも2本程を確認できましたが、数カ所、掘り返された跡があり、鬼皮が捨てられていました。下段でも10カ所以上の掘り跡があり、これは会員以外の侵入があったとしか思えません。なんとかならないものでしょうか。

そうこうする内にタケノコ掘り初日。まずまずのお日和に恵まれて、昨年同様、各人コロナ対策をしての有志の集合です。広場では恒例のタケノコ汁の鍋が主役の投入を待っています。今年はやっぱり不作のよう。それでも参加者全員でタケノコ汁に舌鼓を打ち、倒木を集めた焚き火にくべたホイル焼きで、春の香りを味わうことができました。

この後予定されていた17日（土）、25日（日）のタケノコ掘りは中止。雨や、25日には緊急事態宣言の発令もあっての残念な判断でした。

竹林整備の観点からみれば、タケノコの不作は竹の伐採し過ぎによる生態系の変化だろうか？ いや地球環境、温暖化に原因があるのでは？ などと考えながらも、来年に期待したいと思っています。

（井上 メイ子）

草刈りのご褒美 タツナミソウの群生に出会う！

5月15日（土） 天気：晴 参加者：6名

半年ぶりの緑地は、小さな子の背丈ほどにも雑草が生い茂っていた。それでも久しぶりの森林浴でマイナスイオンを頂戴し、身体中がほぐれていくような開放感がある。

手分けして草刈りに精出し、一輪車にまとめては運んで積み上げた。

一段落したところで鈴木さんが「そういえば、2～3年前にタツナミソウ見つけたんだけど、この辺りにまだたくさんあるのね」と。早速彼女の案内で探索に出かける。途中、皆が歩く雑草の中には赤い実があちこちに。可愛らしい！ 「グミかしら」、「木苺かと思った……」と楽しい。本当はウグイスカグラの実だということが後で分かった。でも食べられるらしい。

草地と雑木林の斜面を分ける小川の辺りで、大きな木の根元一面にタツナミソウ発見！ 紫の花びらを波頭のようにくるっと巻いた姿で群生している。感動！ 大切に護らなくては。

（新納 清子）



今年のタケノコの出具合は？（神谷）



恒例のタケノコ汁のお味は？（神谷）

コロナ禍で田植え作業は断念 草刈りの合間に散策する人と交流も

6月12日（土） 天気：晴 参加者：5名

前回の物置小屋前の広場より西側に拡げての草刈り作業を開始。2台のエンジン草刈り機のうち1台は不調だったので、合田さんの使う1台と手鎌で作業。手鎌ではやっぱりはかどらない。思うように刈り払い面積を上げられなかった。

三々五々、緑地付近を散策する人も増えている。私たちが休憩していると、そんな中の一人から声がかかったのでお誘いし、しばし歓談。「みどりのゆび」の活動やフットパスの冊子を発行していることなどをおしゃべりする。

この日は地元在住の会員、廣瀬さんから大玉キャベツのお土産があった。帰宅後、妹に「キャベツを分けてあげる」と連絡すると、「里帰りでもしてきたみたい」と言って取りに来てくれた。

当初、恵泉女学園大学の田んぼで田植えを手伝うことになっていた日ではあったが、「緊急事態下なので公共交通機関を使わず参加できる方、コロナ感染不安を感じない方、という条件をクリアし、参加希望される方は、事前に参加意思表示ください」という連絡で不参加に。しばらくは不自由なことが続くのだろうか。

（新納 清子）



NPO法人「みどりのゆび」 2021年9～2022年3月フットパス・スケジュール

持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：会員1000円（イベントによって変更あり）

今秋はちょうど大河ドラマで放映中の渋沢栄一ゆかりの地から始まります、お楽しみに。そろそろワクチンは済まされた方も多いため、是非秋のウォークにお出かけください。

- 必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、**昼食の予約など保証できなくなります。**
- 申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、**再度ご連絡ください。**

メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904（神谷）

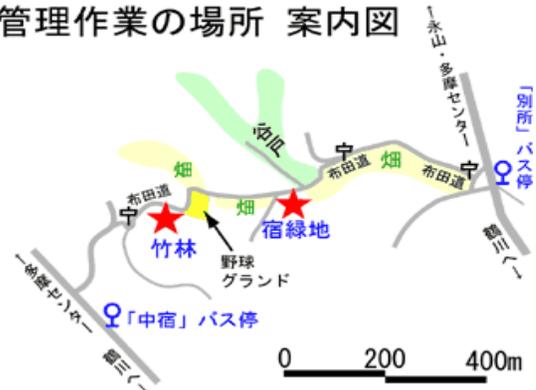
<p>9月25日(土)</p> <p>【集合】JR「王子」駅 駅前公園 10：00AM 【昼食】現地レストラン 申込締切 9月18日まで</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう：渋沢栄一の愛した飛鳥山』 【講師：鈴木由美子・八田三枝子：王子・飛鳥山の今と昔を歩く】</p> <p>【内容】キツネで有名な王子は、縄文時代は海でした。上野から赤羽まで続く崖線の中に位置しています。飛鳥山は8代将軍の吉宗が桜を植え、渋沢栄一が居を構えた所でもあります。装束稲荷神社のすぐ前のお店には色んなキツネのお面がたくさんあって楽しいです。 【コース】王子駅前公園→装束稲荷神社→北トピア→日光おなり道→王子稲荷神社→名主の滝公園→北王子線廃線→王子神社→親水公園→醸造試験場跡地公園→飛鳥山→王子駅前公園</p>
<p>10月3日(日)</p> <p>【集合】小田急線「小田原」駅改札口 9:40AM 厳守 9:55AM 伊豆急箱根バス箱根関所跡行きに乗車 【昼食】弁当要</p>	<p>『フットパス専門家講座：スマレ博士と行く秋の箱根-精進池から東芦之湯』 【講師：山田隆彦】</p> <p>【内容】箱根石仏群の点在するこのコースはなだらかな登りで、のんびりと散策できます。ノコンギクやシロヨメナの白い花、箱根が北限となっているヒメシャラの黄褐色の美しい木肌を楽しめます。ヒコサンヒメシャラも生えており、その違いをチェックしましょう。ヤブデマリやサンショウバラなどの果実が見られます。東芦之湯の湿原ではサワフタギの瑠璃色の実やアオハダの赤い実も観察いたします。 【コース】小田原9:55 ⇒ 10:37 穴像地蔵 ---- 精進池 ---- 東芦之湯15:44 ⇒ 16:26小田原</p>
<p>10月24日(日)</p> <p>【集合】小田急線「鶴巻温泉」駅 北口改札前 10：00AM 【昼食】弁当要 申込締切10月20日まで</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう：伊勢原-時空の散歩道』 【講師：田邊博仁：のどかな伊勢原丘陵と相模の歴史に触れる】</p> <p>【内容】大山を頂点として広がる伊勢原丘陵は、昔から「四神相応」の地、気候温暖の地、太古から多くの人々の生活の舞台になっていました。今回は伊勢原市西部比々多地区を歩きます。周囲は果樹園や農地に囲まれた長閑な丘陵地帯で遠く江ノ島や相模湾の絶景が楽しめます。また、東日本最古級といわれる三ノ宮比々多神社を中心に多くの遺跡群もあります。ミカンを食べながら丘陵地帯を歩く自然フットパスと、相模国の成立の歴史にふれる歴史フットパスです。 【コース】鶴巻温泉駅→関東ふれあい道→いせはら塔の山緑地公園→比々多神社→鶴巻温泉駅または伊勢原駅（バス時間による）</p>
<p>11月7日(日)</p> <p>【集合】小田急線「小田原」駅自由通路・小田急線改札口前 10:00AM 【昼食】なりわい交流館の周辺で適宜 申込締切10月20日まで</p>	<p>『フットパス専門家講座：小田原の海浜別荘跡と宿場町を歩く』 【講師：浅黄美彦】</p> <p>【内容】1990年代初めの小田原は、旧市街地の空洞化、高層マンションの乱立にともなうお城への眺望景観の阻害などいくつかの課題を抱えていました。これらの課題解消に向け、景観計画の策定、景観条例、まちづくり条例の制定、お城・道路・広場などの景観整備を進め約30年ほど経過しました。お城を中心とした文化財整備、小田原駅の自由通路、ミナカ小田原、歴史的建造物の保存修復、街かど博物館、なりわい交流館の整備など、多様な取り組みがなされた都市再生の途上の小田原を歩いてみようと思います。 【コース】：小田原駅→宿場町を歩く→なりわい交流館周辺で昼食→海浜別荘跡を歩く→西海子（さいかち）小路の武家屋敷を歩く→ミナカ小田原 足湯で休んで3時過ぎに解散。</p>
<p>11月21日(日)</p> <p>【集合】小田急線「鶴川」駅改札口 10：00AM 【昼食】現地レストラン予定</p>	<p>『新しいフットパスを作ろう：秋の岡上とヌーボー・ワイン』 【講師：みどりのゆび：新しい鶴川駅周辺—岡上から金井】</p> <p>【内容】鶴川駅は岡上も含めてこれから大きな開発が始まり、このあたりはますます活性化します。鶴川周辺には岡上、和光大学、玉川大学といくつかの丘陵が連なっているので、その地形に沿った味わい深い景観や道があるだけでなく、建築学的にも面白い建物が多く魅力的な地域です。建築家の創ったバラ園「季の庭」は春にご紹介しました。今回はあの有名な線路沿いのカタツムリ住宅に寄ります。昔は家族が住んでいましたが、この度、播州織りのデザイナーズブランドtamaki niimeの東京初の直営店としてオープンしたのです。 （※参照：https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000052771.html） また「季の庭」、「蔵ワイン」の岡上ヌーボーなどアトリエや秋の味も楽しめます。</p>

<p>12月5日(日)</p> <p>【集合】小田急線「成城学園前」駅 新宿寄改札口 10:00AM 【昼食】現地レストラン 申込締切12月1日まで</p>	<p>『フットパス専門家講座：成城学園と玉川学園』 【講師：高見沢邦郎：小原國芳が種を蒔き育んだ二つの住宅地を訪ねる】</p> <p>【内容】小原國芳(1887-1977)は鹿児島島の片田舎で育ち苦学して教育者となった。東京に招かれ、大正の半ばころ成城学園の開設に携わる。が、成城にあきたらず、自らの理念(全人教育)をより完璧に実現したいと新天地を求め、昭和初期に玉川学園を創設した。両学園ともに、土地を購入して一部を分譲、その代金でキャンパスを整備というデベロッパー的な取組みだった。学びの舎との両輪にあった二つの住宅地を歩いてみよう。</p> <p>【コース】成城学園前駅→住宅地歩き→駅周辺で早めの昼食、小田急線に乗車(約30分)→玉川学園前駅改札に13時頃再集合→(地区センターで30分ほどレクチャーを予定)→住宅地歩き→3時過ぎに玉川学園前駅にて解散(希望者はその後早めの忘年会)。</p>
<p>2022年 1月9日(日)</p> <p>【集合】日比谷線「神谷町」駅前セブンイレブン 10:00AM 【昼食】麻布十番の蕎麦</p>	<p>『フットパス専門講座：麻布、六本木の昭和モダン』 【講師：浅黄美彦・塩澤珠江：麻布台、飯倉片町】</p> <p>【内容】高見沢理事長のお知り合いの塩澤珠江さんは有名な舞台装置家吉田謙吉氏のご長女で、幼少の頃、お父様が飯倉片町に設計された「劇的空間」のお家に住んでおられました。この跡を訪ね、昭和初期の香りが残る麻布台、元麻布あたりを歩きます。</p> <p>【コース】：神谷町駅→光明寺(神谷町の駅の近く) テラスからの墓地の眺め→日本聖公会の教会(レーモンド設計) 聖オルバン教会、金地院：1950年代設計のモダニズム寺院として有名ノアビル(白井晟一 1974) 永井坂、霊友会釈迦殿→前を通り、雁木坂、外苑東通りを渡り、植木坂を下り 島崎藤村旧居跡→ブリジストン石橋家・高峰秀子・松山善三郎のある麻布永坂、キャンティ前を通り→スペイン村、麻布十番で蕎麦の昼食。 午後は暗闇坂を上り麻布台へ。安藤教会など坂を下り、麻布十番で老舗にいくつか立ち寄り麻布十番駅で解散。希望者は麻布で新年会。</p>
<p>3月5日(土)</p> <p>【集合】小田急線「生田」駅改札口 10:00AM 【昼食】現地レストラン 申込締切3月1日まで</p>	<p>『フットパス専門家講座：明治大学戦時資料館から生田緑地へ』 【講師：高見沢邦郎】</p> <p>資料館が日曜休館なので土曜開催となります。</p> <p>【コース】：生田駅→明大生田キャンパス(登戸戦時資料館/風船爆弾など/一見の価値あり)～川崎市長沢浄水場(武道館や京都タワー設計で晩年は名を落とした?が近代建築の大家、山田守の傑作(ただし外から見ることに)～専修大学多摩キャンパス(図書館で時々面白い展示をやるが今はやってない?)～生田緑地(行かれた方も多いでしょうが・・・) / 昼食=カフェテラスや蕎麦屋あり)～12時頃到着し、食事と見学は適宜に/現地解散。</p>
<p>3月27日(日)</p> <p>【集合】JR「武蔵小金井」駅改札口 10:00AM 【昼食】東小金井駅周辺で適宜</p>	<p>『フットパス専門家講座：小金井 国分寺崖線(ハケ)と小金井桜・江戸東京たてもの園』 【講師：浅黄美彦】</p> <p>【内容】このコースは、武蔵小金井駅の南にある国分寺崖線、ハケの道を歩きながら、旧家、旧別荘、野川、武蔵野公園を午前中に訪れ、午後は戦前に都市計画決定された武蔵野の森都立小金井公園で、小金井桜と江戸東京たてもの園を訪ねます。</p> <p>【コース】：武蔵小金井駅→前原坂上(小金井スカイコーポラス・質屋坂)→ハケの道→ハケの森カフェ・美術館→都立武蔵野公園・野川→東小金井駅周辺で昼食→バスで関野橋・玉川上水→小金井公園 小金井桜を眺め→江戸東京たてもの園へ(下町ゾーン、山の手ゾーンを中心にじっくりと解説します。)→バスで武蔵小金井駅へ。解散。</p>

「みどりのゆび」 2021年9～2022年1月CSAスケジュール

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

集合：現地10時 持ち物：弁当、水筒、軍手、長靴(必要なら)

2021年度  「緑と農の管理」	管理作業の場所 案内図
<p>9/19(日) 緑地 夏の草刈り 10/9(土) 稲刈り 恵泉女学園の田んぼに集合 10/17(日) 緑地草刈り 11/14(日) 竹林整備 12/12(日) 竹林整備 1/16(日) 緑地草刈り</p>	 <p>0 200 400m</p>

NPO法人みどりのゆび 新ホームページのご紹介

新年(2021年)から、ホームページをリニューアルいたしました。ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントの、スケジュール、カレンダー、申し込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

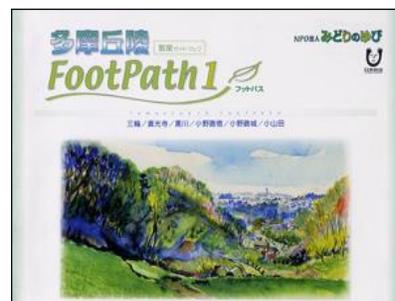


フットパスガイドマップ 既刊4冊

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」¥500+税、「多摩丘陵FootPath2」¥500+税、「まちだフットパスガイドマップ」¥800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」¥700+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。



NPO法人「みどりのゆび」

- ・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
- ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>